

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

製品名	HERZOGエポ 1551
会社名(販売元)	ハルツォク・ジャパン株式会社 〒170-0003 東京都豊島区駒込2-3-7
担当部署	メタログラフィ営業部 TEL:03-5907-1771 FAX:03-5907-1770
推奨用途 検	検査試料包埋用

2. 危険有害性の要約

GHS分類

皮膚腐食性／刺激性	区分 2
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 2
皮膚感作性	区分 1
水生環境有害性 短期(急性)	区分 2
水生環境有害性 長期(慢性)	区分 2

GHSラベル要素



注意喚起語

警告

危険有害性情報

H315 - 皮膚刺激
H317 - アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
H319 - 強い眼刺激
H411 - 長期継続的影響によって水生生物に毒性

注意書き

P261 - 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレートの吸入を避けること
P264 - 取扱い後は顔、手、露出した皮膚をよく洗うこと
P272 - 汚染された作業衣は作業場から出さないこと
P273 - 環境への放出を避けること
P280 - 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること
P302 + P352 - 皮膚に付着した場合: 多量の水と石けん(鹸)で洗うこと
P305 + P351 + P338 - 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること
P321 - 特別な治療が必要である
P332 + P313 - 皮膚刺激が生じた場合: 医師の診察／手当てを受けること
P333 + P313 - 皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合: 医師の診察／手当てを受けること
P337 + P313 - 眼の刺激が続く場合: 医師の診察／手当てを受けること

P362 + P364 - 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること

P391 - 漏出物を回収すること

P501 - 内容物／容器は都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること

他の危険有害性

特になし

重要な徴候及び想定される非常事態の概要

特になし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	混合物			
化学物質名	濃度又は濃度範囲	化審法番号	安衛法番号	CAS番号
ビスフェノールA型エポキシ樹脂（液状）	80 - 90%	(7)-1279	*3	25068-38-6
エポキシ化合物（希釈剤）	10 - 20%	*4	*3	-
スチレン化フェノール	1.7 - 1.8%	(4)-198	*3	61788-44-1

化審法番号 - *1 登録有り、*2新規物質、*3対象外、*4非公開

安衛法番号 - *1 登録有り、*2新規物質、*3既存物質扱い、*4非公開

労働安全衛生法(変異原性)

規制区分	法文物質名
変異原性が認められた既存化学物質(法第57条の5、労働基準局長通達)	ビスフェノールA型エポキシ樹脂中間体

化審法

規制区分	政令番号	法文物質名
優先評価化学物質(法第2条第5項)	87	4, 4'-イソプロピリデンジフェノールと1-クロロ-2, 3-エポキシプロパンの重縮合物

4. 応急措置

吸入した場合

被災者を空気の新鮮な場所に移すこと。直ちに医師の診断/手当てを受けること。呼吸が不規則になった場合または停止した場合には、人工呼吸を施すこと。

皮膚に付着した場合

汚染された衣服と靴を脱ぎ、直ちに石鹼と多量の水で洗い流すこと。皮膚の炎症やアレルギー性反応が起きた場合には、医師の診察を受けること。

眼に入った場合

直ちに多量の水で洗浄する。最初の洗浄後、コンタクトレンズを外し、少なくとも15分間は洗浄しつづけること。直ちに医師の診断/手当てを受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。直ちに医師の診断/手当てを受けること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状 利用可能な情報は無い。

応急措置をする者の保護

指定された個人保護具を使用すること。セクション8で推奨されている個人用保護具を着用すること。

医師に対する特別な注意事項

症状に応じて治療すること。

5. 火災時の措置

消火剤

粉末消火剤、CO2、砂、土、水噴霧または通常の泡消火剤。

使ってはならない消火剤	棒状水を使用してはならない。
特有の危険有害性	不完全燃焼および熱分解により、一酸化炭素、二酸化炭素、各種の炭化水素、アルデヒドおよび煤煙などの、毒性ガスが発生するおそれがある。これらを閉鎖された空間内または高濃度で吸入すると極めて危険であるおそれがある。
特有の消火方法	粉末消火剤、CO ₂ 、砂、土、水噴霧または通常の泡消火剤。人員を安全な区域に避難させること。環境への放出を避けること。消火活動からの流去水が排水管または水路に流れ込まないようにすること。
消火を行う者の保護	消火を行うときは、必要に応じて自給式呼吸装置を着用すること。指定された個人保護具を使用すること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	人員を安全な区域に避難させること。指定された個人保護具を使用すること。その区域を換気すること。
環境に対する注意事項	あらゆる下水道の中、地面上またはあらゆる水域中に侵入させてはならない。
封じ込め及び浄化の方法及び機械	安全に行えるなら、それ以上の漏出または漏洩を防ぐこと。区域を多量の水で洗い流すこと。砂、土またはその他の不燃性吸収物質に吸収させて回収すること。
二次災害の防止策	環境規則に従って汚染された物体および区域を十分に浄化すること。すべての着火源を排除すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	シャワー、洗眼ステーション、換気システム。特に閉め切った場所では十分な換気を確保すること。指定された個人保護具を使用すること。
安全取扱注意事項	取り扱い後はよく洗うこと。
衛生対策	特になし。
保管	
安全な保管条件	通気の良い場所で容器を密閉し保管する。容器は直射日光を避け、出来る限り室内の涼しい場所に貯蔵する。酸化剤との接触を避ける。火気厳禁。
安全な容器包装材料	鋼(スチール)製容器(缶、ドラムなど)。

8. ばく露防止及び保護措置

ばく露限界	利用可能な情報はない。
設備対策	シャワー、洗眼ステーション、換気システム。十分換気のある場所または閉鎖型システム内でのみ使用すること。火花を発生させない工具および防爆型の器材を使用すること。静電気に対する予防措置を講ずること。作業または装置を部分的に包囲すると共に開口部に局所換気(排気)装置を設けることにより暴露を最小限に抑えること。
保護具	
呼吸用保護具	防毒マスク。
手の保護具	保護手袋を着用すること。プラスチックまたはゴム製の手袋。
眼の保護具	サイドシールド付き保護眼鏡(またはゴーグル)を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣を着用する。保護靴または長靴。

9. 物理的及び化学的特性

外観

物理的状态

形状

色

臭い

臭いのしきい(閾)値

pH

融点・凝固点

沸点 / 沸点範囲

初留点

引火点

蒸発速度

燃焼性(固体、気体)

燃焼又は爆発範囲

蒸気圧

蒸気密度

比重(相対密度)

密度

水溶解性

溶媒溶解性

オクタノール / 水分配係数(Log Pow)

自然発火温度

分解温度

動粘性率

粘度

流動点

液体

利用可能な情報はない

淡黄色

わずかなエーテル臭

利用可能な情報はない

利用可能な情報はない

利用可能な情報はない

利用可能な情報はない

利用可能な情報はない

192 °C クリーブランド 開放式

利用可能な情報はない

利用可能な情報はない

利用可能な情報はない

利用可能な情報はない

利用可能な情報はない

1.12 @25°C

利用可能な情報はない

不溶

易溶 有機溶媒 トルエン キシレン

2.821 ビスフェノールA型エポキシ樹脂(液状)

利用可能な情報はない

利用可能な情報はない

利用可能な情報はない

利用可能な情報はない

利用可能な情報はない

その他の情報

分子量

利用可能な情報はない

VOC含有率 (%)

利用可能な情報はない

かさ密度

利用可能な情報はない

その他

利用可能な情報はない

10. 安定性及び反応性

化学的安定性

通常の条件下で安定。

危険有害反応可能性

通常の使用条件下では安定。

避けるべき条件

継続的な高温状態(50 °C以上)。低温状態(5 °C以下)。

混触危険物質

エポキシ樹脂硬化剤。強塩基(強アルカリ)類。強酸類。酸化性物質(酸化剤)。重合開始触媒。

危険有害な分解生成物

一酸化炭素。窒素酸化物。低分子有機化合物(構造不明)。

その他

利用可能な情報はない。

11. 有害性情報

急性毒性

利用可能な情報はない

皮膚腐食性／刺激性

皮膚刺激

区分:

区分 2

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性

強い眼刺激

区分:

区分 2

呼吸器感受性又は皮膚感受性

呼吸器感受性

利用可能な情報はない

皮膚感作性 区分:	アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ 区分 1
生殖細胞変異原性	利用可能な情報はない
発がん性	利用可能な情報はない
生殖毒性	利用可能な情報はない
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	利用可能な情報はない
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	利用可能な情報はない
誤えん有害性	利用可能な情報はない

12. 環境影響情報

生態毒性
製品情報

長期継続的影響によって水生生物に毒性

水生環境有害性 短期(急性) 区分 2	水生環境有害性 長期(慢性) 区分 2
------------------------	------------------------

残留性 分解性	利用可能な情報はない
生体蓄積性	利用可能な情報はない
土壌中の移動性	利用可能な情報はない
オゾン層への有害性	利用可能な情報はない
他の有害影響	利用可能な情報はない

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄は、適用される地方、国、地域の法律および規制に従って行う必要がある。

汚染容器及び包装

この容器を不適切に破棄したり、再利用することは、危険かつ不法である場合がある。

14. 輸送上の注意

	UN/ID番号	正式輸送品目名	危険有害性クラス	容器等級	海洋汚染物質
IMDG	3082	環境有害物質 (液体)	9	III	該当
IATA	3082	環境有害物質 (液体)	9	III	該当

15. 適用法令

化審法	優先評価化学物質(法第2 条第5 項)
労働安全衛生法	変異原性が認められた既存化学物質(法第5 7 条の5 、労働基準局長通達)
消防法	第4 類引火性液体、第三石油類非水溶性液体(法第2 条第7 項危険物別表第1)
海洋汚染防止法	未査定物質
船舶安全法	有害性物質(危規則第3 条危険物告示別表第1)

航空法	その他の有害物質(施行規則第194条危険物告示別表第1)
労働基準法	疾病化学物質(法第75条第2項、施行規則第35条別表第1の2第4号1) 感作性を有するもの(法第75条第2項、施行規則第35条別表第1の2第4号、平8 労基局長通達、基発第182号)
外国為替及び外国貿易管理法	輸出貿易管理令 別表第1の16の項(キャッチオール規制品目)

国際インベントリー

AIIC	収載
DSL	収載
REACH	弊社営業へ別途お問い合わせください
ENCS	収載
IECSC	収載
KECL	収載
PICCS	収載
TSCA	弊社営業へ別途お問い合わせください
TCSI	収載

凡例:

- AIIC - オーストラリア既存化学物質インベントリー
- DSL - カナダ国内物質リスト
- REACH - EU 登録、評価、認可および化学物質の制限
- ENCS - 日本化審法 既存化学物質
- IECSC - 中国現有化学物質名録
- KECL - 韓国既存化学物質目録
- PICCS - フィリピン化学品 化学物質インベントリー
- TSCA - 米国有害物質規制法セクション8(b)、インベントリー
- TCSI - 台湾既存化学物質インベントリー

16. その他の情報

発行日 2023-02-10

改訂記録 利用可能な情報はない。

主要参考文献とデータの出典

ACGIH - Threshold Limit Values
U.S. - OSHA - Final PELs
日本産業衛生学会—許容濃度の勧告
労働安全衛生法—作業環境評価基準—管理濃度
IARC

免責事項

このSDSは、JIS Z 7253:2019(日本)の要件に準拠しています。この情報は新しい知見及び試験等により改定されることがあります。本文書の記載内容は、当社の最善の知見に基づくものですが、情報の正確さ、安全性を保証するものではありません。すべての化学品には未知の有害性がありうるため、取り扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願い申し上げます。なお、本SDSでは、営業上の秘密に該当する情報を省略している場合がございます。